

【開講日】令和元年11月29日(金)

三鷹サテライト教室

文学

三鷹

312028g

【連続講座】太宰治 生誕110周年記念

# 太宰治の「私」

— 語りの形式と戦略について —

受講料 (振込額)	1,500円 ※連続講座「太宰治 生誕110周年記念」全7講座お申し込みの場合10,000円				
必携テキスト	——				
講座概要	曜日	金曜日		日程 11月29日	
	時間	13:00～14:30			
	回数	全1回	定員		50名 (全7回講座と合算)
	開講場所	三鷹サテライト教室 7F 大教室			
講師	本学教授・作家 川西 宏之 (かわにし ひろゆき)				
	著述家。筆名川西蘭。早稲田大学政治経済学部卒。大学在学中に『春一番が吹くまで』を刊行し、創作活動を始める。2011年4月より東北芸術工科大学芸術学部文芸学科教授。文芸創作を講じる。2019年4月より現職。『パイレーツによろしく』『夏の少年』『セカンドウィンド1-3』など著書多数。ブツダの生涯を弟子との関わりとともに描いた、長尾みのる(絵)との画文集『ブツダ』を始め、浄土真宗の篤信者「妙好人」についてのエッセイなど仏教関係の著作もある。				
内容	私小説作品に登場する「私」は作者自身と見做されることが多いようです。太宰治の作品も同様に、と言いますか、太宰治のいくつかの作品はその典型と考えられています。しかし、それは本当に妥当な読解なのでしょうか？ 実は、わたしたちは、私小説に於ける「私」の役割を熟知した太宰の戦略にまんまと乗せられているのではないのでしょうか？ この疑問を『道化の華』と『女生徒』を参照しながら、追究していきたいと思います。『道化の華』は、太宰がエッセイ「川端康成へ」の中で「日本にまだない作品だ」と自信を見せた作品です。しかし、この作品を川端康成は芥川賞の選評で否定します。ここから、太宰は川端への憎悪を露わにしていくのですが、それすら本心だったのかどうかは不明です。川端が評価した『女生徒』にも言及しつつ、二人の作家の関係についても考えていきたいと思います。太宰治の小説に対する姿勢を、「私」の語りの戦略を軸にして考察することで、少しでも作品の読解と観賞を深められれば、と考えています。太宰治の作品世界をともに楽しみましょう。 ※参考図書：「道化の華」「女生徒」「川端康成へ」(『もの思う葦』所収) 太宰治 新潮文庫				

世界の幸せをカタチにする。  
Creating Peace & Happiness for the World



武蔵野大学

Musashino University

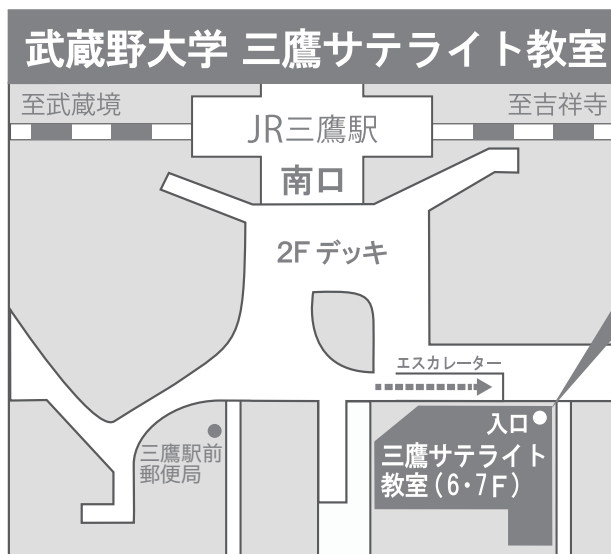
お問い合わせ TEL 042-468-3222  
FAX 042-468-3211

開室日：月～金曜日 9:30～18:00  
：土曜日 9:30～15:30 (祝日を除く)

武蔵野大学 生涯学習事業課

〒202-8585 西東京市新町1-1-20  
www.musashino-u.ac.jp

# 武蔵野大学 三鷹サテライト教室



〒181-0013

東京都三鷹市下連雀3丁目26-12  
三鷹三菱ビルディング

JR中央線・総武線  
東京メトロ東西線  
JR三鷹駅 南口より徒歩1分

三鷹三菱ビル 6・7F  
(三菱UFJ銀行のビル)

1階入口からお入りください。

- ・ 前の時間に講座がある場合は教室の準備ができるまでお待ちいただくことがあります。
- ・ 教室前の机にある出席簿に○をつけてから教室にお入りください。
- ・ 生涯学習講座登録証を携帯してください。
- ・ 欠席の連絡は必要ありません。
- ・ 駐輪場、駐車場はありませんのでご了承ください。